

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 中尾教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本児一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援計画を作成し、日々の支援内容に反映している点	保護者の思いや要望を定期的に確認し、支援計画や日々の関わりに反映できるよう努めている	モニタリングや評価の視点をより明確にし、支援の成果や課題を客観的に整理していく
2	職員間での情報共有や声かけを重視し、チームで支援を行う体制が整っている点	日々の支援記録をもとに、支援内容や関わり方について職員間で共有・検討する機会を設けている	職員研修や事例検討の機会を増やし、支援の質の向上と共通理解を図る
3	学習支援・SST・自由遊び等を通して、生活面・社会性・学習面をバランスよく支援できている点	SSTや日常の関わりの中で、具体的な言葉かけや視覚的支援を取り入れ、理解しやすい支援を心がけている	本児の強みや得意なことに着目した支援内容をさらに充実させ、自己肯定感の向上につなげる

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	本児一人ひとりに合わせた支援を行っている一方で、支援方法や関わり方に職員間で差が生じることがある点	職員の経験年数や専門性に差があり、支援に対する視点や判断基準が異なること	支援の考え方や対応方法について、事例検討やミーティングを通して共通理解を深めていく
2	保護者や関係機関との情報共有において、タイミングや方法にばらつきがある点	職員ごとに判断して連絡を行う場面が多く、経験や認識の違いによって連絡のタイミングに差が生じていること	保護者や関係機関への情報共有の方法やタイミングを整理し、連携をより円滑にしている
3	支援内容や記録が個々の職員に依存しやすく、共有や統一が十分でない場面がある点	業務量が多く、職員間で支援内容を整理・共有する時間を確保しにくい体制であること	職員研修やOJTを充実させ、支援の質の底上げを図る